

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ )

事業所番号	0270101850		
法人名	社団法人慈恵会		
事業所名	社団法人慈恵会 グループホーム新城		
所在地	青森市大字新城字平岡258-9		
自己評価作成日	平成23年10月12日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

冗談を言い合ったり、皆で替え歌を歌ったりして、笑顔で過ごせるように努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療機関であるホームでは、介護・医療・看護・栄養連携の下、家庭的な生活環境と穏やかで安らぎのある人間関係の中で利用者が生活ができるよう努めている。  
また、管理者は職員育成と日常業務におけるリスク管理面への配慮等を通して、透明性の高い運営に努めている他、職員は優しさと思いやりの気持ちを大切に、利用者の思いに寄り添ったケアの提供をしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年11月13日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員全員が地域密着型サービスの役割を理解しており、ホーム独自の理念を作成し、周知・共有化するために、毎日朝礼で復唱している。</p>	<p>ホーム独自の理念は、利用者本位で、安心・安全に地域の中で普通の暮らしを続けることができるようにという思いをこめて作成している。ホールや玄関に理念を掲示すると共に全職員が朝礼等で唱和をしており、理念の共有化と理解、実践に努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣住民や民生委員、町内会の方々と気軽に挨拶し、声を掛け合っている。また、地域の一員としても認知され、行事等に参加して交流している。</p>	<p>職員は地域交流の目的や必要性を理解しており、保育園児の訪問受入やホーム行事への参加を呼びかける等、交流を図っている。また、認知症予防の啓発活動や実習生・ボランティアの受け入れ等、地域住民にホームを理解してもらうような働きかけを行っている他、利用者は地域の運動会へも参加している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>見学、入居に関する相談の他、実習生やボランティアの受け入れ等へも専門性を活かして取り組んでいる。</p>	/	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは会議の意義や役割を理解しており、意見交換をしている。また、ホームの活動報告以外にも外部評価の取組みや結果を報告し、意見をいただき、参考にしている。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、外部評価結果や行事の内容、認知症高齢者グループホーム協会への参加報告等を行っている。また、メンバーからも利用者の無断外出対策等、ホームの運営についての提言がなされ、サービス向上に寄与している。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>毎月のホーム便りを届けた際や運営推進会議に参加してもらった際に、情報を得られるよう努力している。</p>	<p>市または地域包括支援センター職員が運営推進会議に毎回参加し、市には毎月発行のホーム便りを届けている他、外部評価結果やホーム運営に関する報告も随時なされ、行政との協力関係を構築している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>危険防止のため、洗濯場・台所・物置きは施錠はしているが、ホーム内は自由に移動できるようにしている。外に出る時は、車の往来も激しいため、職員が必ず同行している。</p>	<p>職員は身体拘束の弊害について理解しており、交通量の多い道路への無断外出対策として玄関にセンサーを設置したり、外出傾向のある利用者には表情・会話にも注意を払いながら、職員が同行する等、身体拘束をしないサービス提供に取り組んでいる。万が一、拘束が必要となった場合に備え、家族の同意を得て、経過等を記録に残す体制を整えている。また、無断外出した場合には警察・郵便局・近隣住民の協力を得られるよう、日頃からホーム便りを配布する等して、関係の構築に努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は外部研修へ参加しており、虐待防止に関する理解を深めるように指導している。ホームには虐待防止マニュアルも設置している。管理者やユニットリーダーは職員の入居者へのケアの様子を観察している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員が外部研修に参加して理解を深めるように指導している。また、ホーム内に日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方がいるので、職員は制度を理解している。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に、家族にきちんと説明をし、納得を得た上で契約に至っている。退居時にも退居理由を説明し、納得を得た上で退居届けを提出していただいている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームに意見箱を設置している。また、面会時に直接意見や要望を伺っている。</p>	<p>入居の際、利用者や家族に、ホーム内の意見箱や苦情検討委員会があることを話し、意見や要望の申出ができることを説明している。また、家族には利用者のホームでの暮らしぶり・健康状態・受診状況や「金銭管理委託契約書」に基づく預かり金の収支記録を毎月報告しており、透明性のある運営に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、職員全体のミーティングを設けている。出された意見については職員全員で話し合いを行っている。	管理者は、職員が運営に関しての意見や提案を述べやすい環境づくりに努めており、ミーティング等の場で職員は意見を出している。また、研修受講等の職員育成面や日常業務におけるストレス対策、資格取得時には昇給昇格を行う等、職員の処遇面にも配慮しており、職員の希望を取り入れやすいように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場の状況の他、職員の日々の勤務状況や努力について把握している。休みの希望もできるだけ叶えるようにしている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は積極的に外部研修に参加している。また、関連施設で行う勉強会にも参加し、スキルアップに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国グループホーム協会に加入しており、県支部から知らされた研修等に参加し、同業者との交流を深めている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が何でも話してくれるような雰囲気作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時家族からの相談も受けている。また、ホーム側からも困っていることや要望等を伺うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	美容院の利用や病院受診等、家族ができない時には代行する等して対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員からの一方的な援助ではなく、利用者本人の「できる事」を見極め、参加していただき、利用者と職員が共同し合いながら生活している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を保ち、遠方の方には電子メールを活用して、ホームでの出来事や利用者の状態等を常に報告している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に本人や家族からのアセスメントにより把握しており、生活の中に、本人が散歩した馴染みの場所や友達との交流が保てるよう努めている。	利用者が家庭的な生活環境の下で穏やかで安らぎのある生活を続けられるように、管理者を中心に職員全員が本人の思いや家族の思いの理解に努めている。また、馴染みの関係が途切れないように、行きつけの美容院の利用や買物を支援したり、ホーム内に設置している公衆電話での知人との交流支援にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションをとれるように、職員が仲を取り持っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先の関係者に、利用者の入居中の状況や生活歴等を伝え、環境や暮らし方を継続することについて配慮してもらっている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から要望を聞き、本人本意の生活が維持できるように努めている。	不慣れな生活から心理的な動揺や嘔吐等の症状もあることから、職員は利用者の入居時には特に注意しており、思い等の把握に努めている。また、利用者の思いへ共感して寄り添い、一人ひとりの能力やペースに合わせた生活支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族からの聞き取りを行い、本人の馴染みの生活が、少しでも長く送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントでの調査で、生活歴や生活スタイルに応じたケアを提供しているが、日々の生活の中で本人の過ごし方を観察し、少しでも暮らしやすいように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの他、毎月のユニット会議で職員からの気付きや家族からの要望等を反映させたケアプランの作成に努めている。	入居時のアセスメントや、家族等の意見、職員の気づき等を反映させて介護計画を作成しており、管理者・職員は毎日の申し送り時や毎月の職員会議でも利用者の心身の状況の把握に努めている。3ヶ月毎の見直しその他、利用者の状況や希望等の変化時には随時計画の見直しを行っており、家族への説明と了解の下でサービス提供がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の普段とは違う変化等を個人記録に残している。また、新たに変化や気づきを記録して実践した援助に対して、その結果を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>行事の際等に、保育園の子供達が手作りの作品を届けに来てくれる等、交流を行っている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族、本人の意向に合わせて、受診する際は利用者の状態等について情報を提供している。</p>	<p>利用者と家族に、かかりつけ医の利用の他に法人関連病院の受診もできることを説明して、同意を得ている。受診の際には、医師に利用者の認知症等の症状の改善につながるような、的確な報告に努めており、受診結果について変化がある際は随時家族に報告している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>少しの変化でも、関連施設の看護師に連絡し、対応を相談をしている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合、入院先のケースワーカーや看護師に情報交換をお願いし、早期退院に向けた連携を図っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重症化、終末期ケアは行っていないが、入居時に家族や本人の意向を聞き、特養等の申し込みや特養の待機状況を聞いて家族に報告・手続き等を行っている。</p>	<p>利用者が重度化や終末期に至った際の対応を行っていない旨、ホームの方針を明確にしており、入居時に利用者及び家族に説明している。医療が必要となった際の対応についても早い段階から話し合いをし、利用者が退居の際は他施設や在宅介護サービス等の紹介をし、家族が不安を抱かないような対応に努めている。</p>		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に外部の研修に参加する等、職員のスキルアップに努めている。			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度から、自主避難訓練も含めて年6回避難訓練を行っている。その中で夜間を想定した訓練も行っている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを忘れずに、敬う気持ちで援助を行うように心掛けている。		利用者一人ひとりの人格を尊重し、羞恥心とプライバシーに配慮したサービス提供に努めている。また、職員は利用者への声掛けや対応について、折に触れて話し合いながら、改善に向けて取り組んでいる。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	他の利用者に影響ない範囲で行っている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを把握し、本人の生活リズムが崩れない程度に、本人本位の対応を行っている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの色やその人らしいスタンスを維持できるように支援している。			



自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は毎食時、テーブル拭きや後片付けを行っている。	利用者はそれぞれの状況や意思に応じて調理、配膳、下膳等の作業を職員と一緒にっており、職員は食べこぼしへのサポートや摂取状況にも注意を払いながら、和やかな語らいの中で一緒に食事を摂っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎回確認し、普段と違う場合は記録している他、水分量を毎回記録している。個々のレベルに応じて刻み食を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々のレベルに応じて必ず口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導も定期的に行っている他、本人の希望時にもきちんと誘導を行っている。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、定時のトイレ誘導の他、訴えがある場合にはその都度対応している。消化促進のための腹圧運動や食材の工夫等をし、おむつからパットに変更される等の改善事例もあり、排泄の自立に向けて取り組んでいる。また、失禁時の対応や声掛けは、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取り入れたり、運動を行っている。それでも確認が取れない時は薬で対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人が希望した時は、入浴できるように努めている。	入居時に利用者や家族から入浴習慣や好みを聞いて、把握している。基本的に週2回の入浴となっているが、入浴を拒否する利用者に対しても声掛けを工夫したり、タイミングを見計らって対応している他、清拭を行う等の柔軟な対応に努めている。また、同性介助で支援にあたる等、利用者の羞恥心へ配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人の空間を大切に、本人が過ごしたい方法で対応している。夜間は照明等の工夫により、安心して眠れるように対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに薬が処方された場合は、職員全員の周知が図られるよう、ノートにどのような薬が処方されたのか記している。また、薬の副作用等にも気をつけて観察し、観察結果を主治医に報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や家族の希望を踏まえ、家事援助等に参加していただいている。また、本人の嗜好を理解し、レクリエーションや散歩等を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月ユニットでの外食・外出支援の他、家族等の協力も得ながら、個々の外出支援も行っている。	利用者がホーム内に閉じこもりがちにならないように、利用者の心身の状態をチェックしながら、保育園の運動会、ねぶた祭り、学校の音楽会等へ参加し、地域住民との交流や外出支援に努めている。また、買い物や外食等の際に家族の協力を得ることもあり、利用者の希望に応じて、日常的に外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力量に応じて、自己管理できる方への対応を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり、自由に電話をかけることができる。また、自力でかけることができない方へは、希望に応じて職員がかけられている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、共用空間や個人の居室を掃除し、快適に過ごせるように観葉植物を置く等、空間整備に努めている。また、空調にも気を配り、一年中快適に暮らせるように努めている。	ホーム内部は木調と白地を基調としており、観葉植物を置いたり、ゆっくり過ごせるようにソファやテーブルを配置する等、落ち着いた雰囲気となっている。職員の立てる物音やテレビの音量等も適度であり、室内は明るく、日射しや照明等も適当である。また、ホーム内の温・湿度も適切に保たれており、季節が感じられるような飾りつけも行われている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、気の合う利用者同士で会話ができるように座っていただき、リビングのソファでテレビを観ながら、ゆっくり過ごしやすい雰囲気作りに努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に椅子やタンスを置いたり、仏壇を置いたりし、本人が過ごしやすいようにしている。	居室には備え付けのベッド・クローゼットの他に、家族の位牌や写真等、馴染みの物が持ち込まれており、これまでの生活の延長のような感じを抱かせる居室づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー化している。また、他者の居室やトイレを間違わないように表札や目印を付ける等して、自立した生活が送れるように努めている。			